

くにみ学園基本構想（案）に対するパブリック・コメントの実施結果について

1 意見募集の概要

意見募集期間	令和5年2月1日（水）～令和5年2月16日（木）17時まで
閲覧場所	(1) 国見町教育委員会 学校教育課 8時30分～17時15分（土日祝祭日を除く） (2) 町ホームページ
意見の提出方法	持参、郵送、FAX、電子メール
意見の提出先	国見町教育委員会 学校教育課
提出された意見の件数	(1) 意見提出人数（件数） 8名（24件） (2) 有効提出人数（件数） 7名（19件） ※1名から提出された意見（5件）については、くにみ学園基本構想（案）への具体的な指摘はなく、意見内容が本構想とは関係ない内容であるため除きました

2 意見募集の概要、町の考え方及び計画への対応

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
1	P. 35-37	目指す子どもの姿のイメージ	『好きなことをとことん突き詰める姿』、『ありのままの自分を受け入れる姿』、『心身ともに健康である姿』 →この3つの観点は、探究的な学びの場・子供たちの多様な個性を受け止める姿勢・集団生活の中で得られる良好な環境を想像できて、とても共感できます。	目指す子どもの姿のイメージを大切に構想を進めていきます。
2	P. 42	学園の理念 (コンセプト)	「ワクワク チャレンジ つながる くにみっ子」 →こここのコンセプトになった途端に意図がぼやっとしてしまっただ印象です。あらゆる要素を包括的に取り入れた表現なのだと思いますが、本質的な意図を表現した文章に修正が必要だと思います。	子どもたちにも分かるような表現としつつ、目指す子どもたちの姿をコンセプトに込めました。 P. 43に『学園での「遊び」と「学び」は、その後の新しい世界でも「学び」と「好き」を見つけ、夢中になって挑戦し続ける力を持ち、生涯にわたり「学び」はつながっていきます。』と記載し補足しています。
3	P. 43-47	学園整備の方針及び新教育施設等の整備基本方針	探究的な学びの時間の大切さは、一般的に広く認知されるようになってきましたが、その中でも高校受験などの学力との両立が求められる時代だと思います。 ICT技術や動画コンテンツによる効率的な学習スタイルを確立すること、宿題や定期テストなど、学力に直結しているか検討の余地があるような従来の制度・仕組みを見直すことなど、学校全体で現行の教育プログラムの改善が求められるのではないのでしょうか。	従来の制度や学校の仕組みの改善は町単独では難しいことから、県教育委員会の理解と、域学連携を結んでいる大学や短大などの協力を得ながら、改善に向け努力したいと考えています。

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
4	P. 42	学園整備の理念と方針	<p>人間が、成長する過程において、創造性は重要な視点だと考える。知識を得るためには、興味、関心を持つ反応から、参加、取り組みへの学習、この学習から実践、行動があつてはじめて、社会や組織に影響する成果、結果へとつながるといわれている。</p> <p>創造性ということばはあるが、実践や行動、ということばでより具体的な評価につながる理念があれば、より深まるのではないかと思えた。</p> <p>これからの世界は、自治体レベルで質的評価が問われる。少子高齢社会はとどまらず、非常にきびしい。</p> <p>しかし、少しでも、地域社会が安心な生活を実現するためにも教育現場の整備は必要とされる。また、社会活動をまわすためにも、こどもの一貫教育、保育、学童等は、安全であつてこそ将来性がある。</p> <p>いま、戦争やパンデミック、社会経済に大きな影響があるなかで、行政の構想は大変支持する視点である。</p>	<p>ご意見のとおり、学びから行動を起こすことができる子どもの育成を目指します。</p>
5	P45	新教育施設等の整備基本方針	<p>0歳から15歳までつながる学園で子どもの成長に合わせた施設は幼児、児童、生徒全てを同一施設で教育しようとするものと思われるが、認定こども園は切り離し、今のくにみ幼稚園に保育所を組み入れた方が良いと思う。</p> <p>(反対理由) ⇒くにみ幼稚園は園舎も園庭も他に類を見ないほどに広い。この好条件を活かさない手はない。ゆとりある幼児教育として町のPRにもなる。</p>	<p>現在は保幼小中が離れているため、上手に連携をとることが難しいとの現場の声があります。</p> <p>年長児と小学1年生のつながり、小学6年生と中学1年生のつながり、年下の子どもの面倒を見る上級生、異年齢の交わりが、子どもを成長させます。そのために、園舎や校舎が同じ敷</p>

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
				<p>地にあった方が効果的との知見があります。</p> <p>このことから、0歳から15歳のつながる学園が必要と考えています。</p>
6	P. 50	計画規模	<p>福島県の10年後は、子供数は約25%減との発表がある。実態を考慮して、施設の規模を検討すべきである。</p>	<p>ご意見のとおり、子どもの数は減少しますが、必要な学級数は確保しなければなりません。</p> <p>基本構想（案）では、想定数に適切な学級数としています。</p>
7	P. 50	計画規模	<p>開校時、計画学級数が2クラスぐらいで人数が少なく、子供の数が少なくなるのが分かっているのに新しく学校を立て直すのはどうかと思う。</p> <p>あと、国見町民がまだ知名度低く、町のHPのPDFを見て意見を言える人って少ないので公平じゃない。</p> <p>町や子供の未来を考えるなら、大学や専門学校を作って他から学生を呼んだほうがいいんじゃないですか。</p>	<p>子どもの数は減少しますが、必要な学級数は確保しなければなりません。</p> <p>また、少なくなったとは言え、国見の子どもたちの教育環境を整えることは大事なことでと考えています。</p> <p>今後も、くにみ学園についての意見交換は継続することとしました。</p> <p>町と町の子どもたちのことを考えた結果が、保育と義務教育期間にあたるくにみ学園です。</p>
8	P. 51	整備に関する財源の確保	<p>構想は大変いいが、現実問題として、財源がどの程度確保できそのうえで、町民への説明等で理解を得て、納得が出来る内容かを得て初めて基本計画に入るべきである。</p>	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>町民への説明、意見交換など、今後も機会を作っていきます。</p> <p>財源は、基本構想が確定した後の基本計画の中で検討します。</p>

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
9	P. 51	整備に関する財源の確保	<p>あらゆる財源とはなんですか。</p> <p>業務委託費の3,000万円高いんじゃないですか？</p> <p>それより地震の壊れた施設（観月台の展望台とか）直してください。</p>	<p>財源は、基本構想が確定した後の基本計画の中で検討します。</p> <p>業務委託費については、ご意見として賜ります。</p>
10	P. 51	学園整備候補地	<p>認定こども園は森江野にある幼稚園と併設する。小学校・中学校は国見小学校に併設し義務教育学校にする。</p>	<p>現在は保幼小中が離れているため、上手に連携をとることが難しいとの現場の声があります。</p> <p>年長児と小学1年生のつながり、小学6年生と中学1年生のつながり、年下の子どもの面倒を見る上級生、異年齢の交わりが、子どもを成長させます。そのために、園舎や校舎が同じ敷地にあった方が効果的との知見があります。</p> <p>このことから、0歳から15歳のつながる学園が必要と考えています。</p>
11	P. 52	学園整備後の使用しなくなった施設の利活用	<p>学園整備後の使用しなくなった施設の利活用で施設の状況や地域住民の意見を十分考慮し総合的に判断するとある。</p> <p>（反対理由）⇒そもそも校舎は学校教育のために作られたもので、他の利用を想定していない。有効活用は難しい。現存の国見小、あるいは県北中の校舎を最大限に利用すべきである。費用の問題もあるし町民の愛着もある。</p>	<p>使用しなくなった施設の利活用は、基本構想策定後の基本計画の検討の中で、施設の状況や住民の意見を十分に考慮しながら、総合的に判断することとします。</p> <p>なお、使用しなくなった保育・教育施設の活用は、全国に多くの事例があり、国でも活用を後押ししています。</p>

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
12	P. 52	学園整備後の使用しなくなった施設の利活用	<p>候補地と施設の利活用については、同時に検討すべきである。10年前の小坂小学校等4校の利活用は、本当に地域住民に理解を得た活用か、また国見小学校及び森江野幼稚園が廃校になった場合、国見町全体の活性化が激減する。各地で廃校になっているが、ほとんど空き家状態が現実です。教育の場所は大事だが、国見町全体の中での教育の場所を願う。</p>	<p>10年前の藤田小学校以外の小学校の利活用は、地域住民の理解を得たものです。</p> <p>使用しなくなった施設の利活用は、基本構想策定後の基本計画の検討の中で、施設の状況や住民の意見を十分に考慮しながら、総合的に判断することとします。</p> <p>なお、使用しなくなった保育・教育施設の活用は、全国に多くの事例があり、国でも活用を後押ししています。</p>
13	全体	全体	<p>くにみ学園構想を策定するに当たり、最も重要なのは、くにみ学園で受けられる“教育”によって、国見町に暮らす子供たちのどんな“能力”を伸ばしてあげることができるのか、という観点だと思います。これが決まらないと、カリキュラムも、必要なハード整備も決まらなと思います。</p> <p>この観点から、1つご提案したいが、アメリカの教育研究者であるアンジェラ・ダックワース氏が提唱するGRIT【闘志】、Resilience【乗り越える力】、Initiative【率先力】、Tenacity【粘り強さ】】という考え方です。勉強が得意で、学校社会でうまくいっていた子供が、社会に出てから苦戦してしまうような状況が起こるのは、このような能力に起因すると考えられています。</p> <p>日本の教育は、ここ数十年にわたり知識の習得に力を注い</p>	<p>ご意見のとおりです。</p> <p>基本構想(案)では第5章(P.42)に記載しています。</p> <p>なお、文部科学省もこれからの時代を生き抜くため、知識や思考力だけでなく、学びを好きになることや人間性を伸ばす教育を目指しています。</p>

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
			<p>できました。その間、世界の教育は研究が進み、入試試験などでも知識量で子供たちの能力を測る仕組みから、経験・体験・非認知能力のような、数値で測れない能力を見る仕組みに変わってきています。このような時代の流れで、これから創るくにみ学園は時代の先端を捉えた学校づくりが求められると考えます。</p>	
14	全体	全体	<p>1 社会環境の変化と今後の動向から</p> <p>社会生活の状況と今後についても、高齢化と収入面での格差の拡大による各家庭での大きな問題が想定され、また若者達の生活についても共働きでないと生活に困窮する生活環境が懸念されており、物価の高騰や諸々の税の負担増が顕著になっており、今後ますますこの状況は増大していくものと思われる。一方、少子高齢化に加え、進出企業および誘致企業等の働く場の提供および伴う税収面での働きかけと対応面での積極性が感じられなく地域経済の衰退が懸念される。</p> <p>そのような中で本件の構想は「効率化」の一環でもあり、国を始め行政の負担軽減のためにも今手を打つ必要があるとの判断から本構想が推進されたものと考えられる。その意味では本構想に賛同している。</p>	<p>保幼小中の施設がバラバラにある現状では、子どもたちや先生たちのつながりの強化、効果的な教育の実現が難しいため、同じ敷地内にある方が効果的との知見があります。</p>
15	全体	全体	<p>2 ハード面は充足でもソフト面での具体策はあるか</p> <p>問題はソフト面である学園整備の理念（コンセプト）を実現し、他の市町村から「くにみ学園」があるから移住してくるまでの理想像に近づくことが出来るかがポイントと思われる。本件についても、全町民の理解は難しいと思われるが、</p>	<p>ご意見のとおり、くにみ学園整備の理念の実現に向けて努力します。</p> <p>また、町民に向けた説明、理解の醸成にも努めることとします。</p>

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
			町のホームページに掲載したから、また回覧で理解を得られるからとは思わず、あらゆる機会に丁寧な説明をすることが大切ではなかろうか。	
16	全体	全体	<p>3 国見移住先の選択肢を目指して</p> <p>本件の学園整備について日本全国の実態と成果および成功事例と問題等を調査し（具体的なデータを基に）これらを踏まえた「くにみ学園構想」であることを丁寧に説明してはどうかと提案したい。</p> <p>何事もハード面については「やる気とお金があれば」大抵のことはできるが、最も大切であるソフト面の地域活性化や多くの住民へ信頼と安心感を享受することは難しい。</p> <p>国をはじめ自治体の税収は国債等の発行状況から見ても将来の不安は払拭できない状況であり、人口構成からも社会構成に数多い大きな不安材料が懸念される。</p> <p>国見町の人口減少の実態については真剣な問題であり、人口増加策のためにも、本件の「話材と成功への実践」が大きな意味を持つことを願っている。</p>	<p>子どもの数は減少しますが、必要な学級数は確保しなければなりません。</p> <p>また、少なくなったとは言え、国見の子どもたちの教育環境を整えることは大事なことだと考えています。</p> <p>今後も、くにみ学園についての意見交換は継続することとしました。</p> <p>町と町の子どものことを考えた結果が、保育と義務教育期間にあたるくにみ学園です。</p>
17	全体	全体	<p>4 独自性の発揮とメリットの拡大</p> <p>①本件の理念を達成するためには、上記3で述べたように「先進事例」によるハード、ソフト両面の実態とメリット、デメリットを本計画に反映させることが大切と思われる。</p> <p>一貫校のメリットはハード、ソフト両面の「共有」ではないだろうか。ハード面で言えば、体育館や校庭や音楽室などの共有、ソフト面では人的交流による事務系や教員等の省力</p>	<p>①くにみ学園での教育の理念を定める基本構想を策定した後の基本計画では、先進事例のメリット、デメリットの評価も十分に反映させていくこととします。</p> <p>②③地域学校協働本部事業として、地域住民や体育協会、文化団体連絡協</p>

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
			<p>化などが大切なポイントであり、将来の時流に合わせた効率化が可能となると考えられる。</p> <p>②町内には体育系と文化系のサークルや女性を中心とした集い等があり、活発な活動が行われていると聞いている。そのほか、趣味や集落を中心としたグループ活動も存在するだろう。</p> <p>これらの全てとは言わないが、保幼小中それぞれに合わせた組織とコラボ（共有）によるコンセプトにマッチさせることにより、本件の真の目的を達成できるのではないだろうか。・・・国見方式の確立</p> <p>③②において関与ができたサークルは町民であり、関与による責任感と生き甲斐と健康増進に結び付くなど、子供達への理解と関与により地域の活性化に結び付くものと思われる。加えて「国見町」に住んで良かったと多くの町民が感じるのではないだろうか。</p>	<p>議会の会員、農家や商工会員など、住民とのコラボで、学校支援を行っていただいておりますが、今より充実させていくこととします。</p> <p>また、ご意見のとおり、くにみ学園では、子どもと大人の学び合いを掲げており、地域の活性化にも貢献できるものと考えています。</p>
18	全体	全体	<p>5 一貫校推進の必要性について</p> <p>①国見町の面積は約 38 k m²で東西南北ほぼ類似の距離となっており、小学校の統合により保幼小中教育機関が各 1 つとなり、近隣等の市町に比べ一貫校の推進が容易であること。</p> <p>②少子高齢化がますます顕著になり、国を始め行政全体の活力と財政面での先細りが想定されることから、行政の施設等をコンパクトにする必要があること。</p> <p>加えて、町の諸々の施設の老朽化が懸念されることや自然災害等による補修などの維持費が増大になる時期を国全体に</p>	<p>現在は保幼小中が離れているため、上手に連携をとることが難しいとの現場の声があります。</p> <p>年長児と小学 1 年生のつながり、小学 6 年生と中学 1 年生のつながり、年下の子どもの面倒を見る上級生、異年齢の交わりが、子どもを成長させます。そのために、園舎や校舎が同じ敷地にあった方が効果的との知見があり</p>

No.	ページ	項目	提出された意見の概要	町の考え方
			<p>おいても迎えようとしている。決して裕福でない日本経済が簡単には立ちなおせない状況が想定されることから町の施設のコンパクト化が不可欠であること。</p>	<p>ます。</p> <p>このことから、0歳から15歳のつながる学園が必要と考えています。</p>
19	全体	全体	<p>前回の中間報告会を聞き、くにみ学園構想の目指しているところや理念はとても共感できてよかったです。</p> <p>今後は是非、より多くの住民を巻き込んでくにみ学園構想を他人事から自分事へとけていく必要があるのではないかと感じました。</p>	<p>くにみ学園構想について、町民への説明、意見交換など今後も機会を作っていきます。</p>